た、5年間の観光戦略アクションプランをへて、次の観光へ向けたアクションをどう起こすのか、市民が観光に参画する仕掛けができないかと考えている、との答弁がありました。

また、図書館の教育効果についても質問がありました。

これに対し、入館者数ではなく貸出冊数が1つの指標になると考えており、目標達成に努力したい。駅前に図書館ができたことで多くの学生の利用がある。学習意欲や本に触れる機会が増えてきており、高梁市の教育力向上に寄与していると考えている、との答弁がありました。

アニメ産業誘致

アニメ産業の誘致についての質問に対し、吉備川上ふれあい漫画美術館や市内飲食店とのつながりを持たせたい。また、アニメを目指す方への支援や、市内を回遊していただくときに、アニメが1つのポイントとなるように、株式会社備中高梁まちづくり研究所とも連携していきたい、との答弁がありました。

県立高校の在り方

県立高校の在り方についてはどのように考えているのかとの質問に対し、市内の県立高校は特色を出そうと努力しているので、市としても応援していきたい。今回その1つとしてフランスのアンペール高校との交流を提案している。また、市民にも現状を知っていただき、県立高校存続の機運を高めていきたい、との答弁がありました。

交流人口

スポーツ交流人口と地域経済に好循環を生む仕掛けづくりについての質問に対し、例えば、ヒルクライムレースでも、さらに付加価値を高める必要がある。レース以外で訪れた方々を捉えて交流人口を増やしていくことが地域経済に波及効果を及ぼすことになるので、一層の官民連携が必要である、との答弁がありました。

各議案に対する質疑

アニメスタジオ整備事業

吉備国際大学との連携によるアニメスタジオの運営支援の具体的内容、また、支援期間についての質問に対し、高梁地域から題材をとったアニメ作品制作と世界中からアニメ制作を受託するという事業を展開する予定である。また、アニメスタジオは株式会社備中高梁まちづくり研究所の事務所にもなっており、高梁地域のまちづくりに関する事業も実施する。運営補助金４９２０万円の財源は、半分が国の地方創生交付金であり、国からの支援は３年間である、との答弁がありました。

古民家を活かした観光まちづくり事業

古民家を再生して宿泊施設にする事業で、平成27年度から整備しているが、その経過、予算額、今後の予定や見通しについての質問に対し、吹屋地区でも空き家が問題となっており、観光戦略アクションプラン吹屋座談会の中で、自分たちで空き家活用に取り組もうという機運があった。コンサルタント等さまざまな方の指導を受けて事業に着手した。事業費は５３００万円で、運営は地元住民で組織した株式会社吹屋が行う見込みである。今後は指定管理者として数カ月の準備期間の後開業する。名称や利用料は未定であるが、インバウンド観光や富裕層を狙った施設となる予定である、との答弁がありました。

（仮称）山田方谷記念館整備事業

山田方谷の事績を顕彰し、全国へＰＲするため、旧図書館を「（仮称）山田方谷記念館」として整備する予算が計上されている。山田方谷は本市にとって重要な人物であり、また、既に歴史美術館等があることから、拠点となる施設をどう考えるかについては、予算計上する前に議会で議論があっても良かったのではないかとの意見がありました。

また、整備の内容、中井地区にある方谷の里ふれあいセンターとの関連性はどうするのかとの質問に対し、整備事業予算２３６６万３千円の内、展示品の整備に約１５００万円、トイレ改修工事が約２８０万円、嘱託職員の人件費が約２４０万円である。山田方谷に関する施設間で機能の分担を図り、また、連携していく必要がある、との答弁がありました。

地球温暖化対策実行計画策定事業

市の施設を対象とした地球温暖化対策実行計画策定委託料が予算案に計上されているが、その具体的内容や財源についての質問に対し、国から温室効果ガスの排出削減に向けた取り組みが求められている。文化交流館、総合文化会館など市内の大規模な公共施設を対象として空調設備や照明設備等大規模改修に備えるために市の計画を全面的に見直すもので、１０００万円は国の財源を活用する、との答弁がありました。

建築物耐震診断補助事業

旧耐震基準による住宅等の耐震診断に対する補助に加えて、災害時の防災拠点へのアクセスを確保するために実施するとしているが、具体的にどのような建物が対象となるのかとの質問に対し、市内の第一次防災拠点としての市役所と高梁中央病院に到達するまでの道路沿いにある建物で、道路の中央線から45度の角度内にその建物が入る場合などは義務対象となる。これは災害時に崩壊した場合に備えて、通行を確保するためである、との答弁がありました。

岡山自動車道付加車線設置推進事業

岡山自動車道の賀陽インターチェンジから北房インターチェンジ区間のような暫定2車線の高速道路は、渋滞による速度低下、事故や災害による通行規制が発生する可能性が高いため、安全性や機能性の面で課題がありました。そこで地元関係者や関係機関の長年にわたる働きかけにより、4車線化に向けた本事業が始まりました。

産業経済委員会は、一日も早い工事完成のため、本事業に係る幾つかの議案について、集中的に審査しました。工事に伴う残土処分に係る予算として平成29年度一般会計補正予算では４８７０万円の繰越、平成30年度一般会計予算では、約１億４６００万円の予算が計上されています。

質疑では、有漢地域での住民説明が十分になされているか、用地交渉の進捗状況、特に付加車線設置の本体工事への影響はないのかという点について質問がありました。

これに対し、昨年4月以降、事業の進展等に合わせたタイミングで町内会長や関係者に、工事内容、安全対策、運搬経路などについて説明してきており、今後も工事スケジュールが具体化するに従って説明を行っていきたい。また、用地取得に関して、現時点（3月23日）では、事業にご理解はいただいているが、予定している土地全ての契約はできていない部分がある。用地が確定したとしても残土処分地として調整池や構造物の設置が必要であり、残土搬入までには数カ月を要するため、本体工事が滞ることが無いよう全力を挙げて用地交渉に取り組む、との答弁がありました。

地域農林業創生事業

薬用作物の普及拡大を図るため初期投資費用の一部を補助する本事業について、補助内容と今後どのように取り組んでいくのかとの質問がありました。

これに対し、補助内容は、カンゾウの苗は2分の1の補助、育苗施設などは3分の2の補助である。有漢地域では地域内にある福祉事業所を含めた連携協定を締結して薬草栽培をスタートさせた。また、中井地区ではミシマサイコを栽培しており、平成29年度は苗の助成制度を活用されている。これまでも薬草栽培者や認定農業者等の団体を対象とした研修会を行っており、今後は薬草栽培に興味のある団体、または個人に、栽培状況や補助の内容も含めた説明を行う、との答弁がありました。